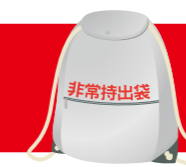




6.12 防災訓練



2次避難所

午前10時から、活性化センターを会場に子どもたちも参加して訓練を行いました。まず始めに煙中通過訓練が行われ、災害時に火が発生した場合の避難方法について学びました。煙が発生している時は、頭を低くして進むという教えを真剣な眼差しで実践していました。



次に、初期消火訓練を行い、消火器の正しい使い方を教わりました。炎と適切な距離を取り、下の方を狙って粉をかけることがポイントと教わりました。小学生をはじめ、皆さん慣れない消火器を扱うのは大変そうでしたが、炎の絵に向かって果敢に消火作業を行っていました。

そのあとは、自分で動くことができない人や、負傷している人への応急処置訓練を行いました。1人で運ぶ方法、2人で運ぶ方法、担架の作り方を教わり、ペアを組み実践しました。また、負傷している方の止血をする際には、感染症を防ぐための手袋が必要であること、無い場合はレジ袋で代用可能なことを教わりました。



最後に、保育所の子もたちによる火の用心の歌と、防火の誓いが披露されると、会場からは大きな拍手が送られました。また、婦人防火クラブによる炊き出し訓練も行われ、訓練に参加したみなさんにおにぎりが配られました。



6月12日、県民防災の日に防災訓練が行われました。宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0と推定される地震が発生し、七ヶ宿町で震度6を観測したという想定で、横川・長老地区住民による公民館への避難訓練や、町災害対策本部の設置訓練が行われました。また、その後蔵王山噴火特別警報が発令されたという想定で、横川・長老地区住民の方々が2次避難訓練を行いました。幼児から高齢者の方まで、総勢280人が参加する大規模な訓練となりました。

横川地区 のようす

横川地区では、地域の方自ら「避難者カード」と「避難者名簿」を作成し、避難者情報の把握に努めていました。その後、ホワイトボードに貼った地区の地図を見ながら、自主避難している方、していない方を確認し、要支援者の洗い出しを行いました。とても自主性があり、防災意識の高さが伺えました。



長老地区では、模造紙に避難者の氏名を書き出し、横川地区と同様に避難状況の把握に努めました。健康福祉課の職員や消防団員が、自主避難していない高齢者世帯を訪問し、安否確認を行いました。また、地震による家屋倒壊の状況確認も行いました。地域のネットワークを生かした訓練となりました。

長老地区 のようす

